

スターリング記念図書館・バイネキ稀観本図書館

(Yale University Library より)

イエール大学は、米国東海岸、ボストンとニューヨークのちょうど中ほどに位置する港湾・商工業都市ニューヘブーンにある。1701年に創設され、米国では3番目に古い歴史を持つ同大学には50を越える図書館が学内にあるが、今回は、和古書を所蔵しているスターリング記念図書館 (Sterling Memorial Library) とバイネキ稀観本図書館 (Beinecke Rare Book and Manuscript Library) が訪問先である。訪問前日、大学傍らに投宿した筆者は、フロントの背後に、「新図書館の閲覧室」というタイトルの絵画が飾られているのに気が付いた。従業員氏に尋ねると、「素晴らしい図書館なので必ず行きなさい」と言う。口ぶりから、どうやら図書館が町のご自慢らしいことが伝わる。期待感をそのままに、筆者は翌朝イエール大学を訪問した。

スターリング記念図書館は、イエール大学の中央図書館で、同大学出身の弁護士ジョン・スターリングの遺産をもとに

1928年建設された(写真1)。中央に聳える塔は375万冊を収蔵可能な書庫である。入口の重厚な木製扉を開けると、内部はネオゴシック様式で壮麗に装飾されている。中に入ると遠く正面にはキリストであろうか、壁画があり、その下ではまめまめしく出納員が働いている。まるで教会かと思ふばかり。キリスト者ではない筆者も、書物に対する畏敬の念を呼び起こさせられる。この館内に東亜部があり、多数の和古書が所蔵されている。だが、イエール大学の和古書はスターリング記念図書館所

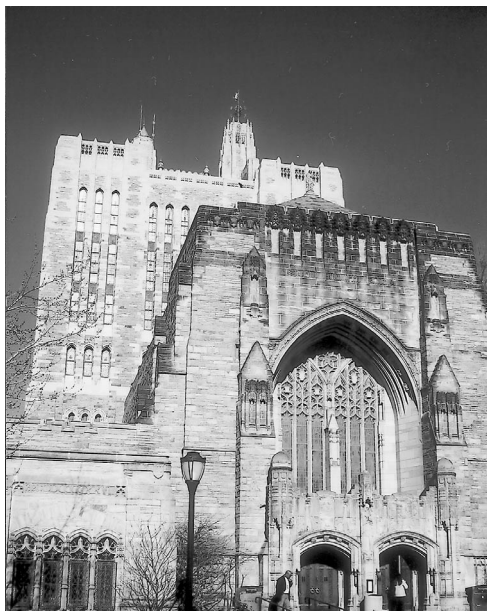


写真1

蔵の資料だけでない。特に貴重な資料は、大理石で作られたバイネキ稀覯本図書館に移管されている（写真2）。同館は1963年設立。四壁は大理石で作られ入口階以外に窓はない。だが、内部は外光が大理石を透過し意外に明るい。内壁には透過光がマーブル模様を描き、幻想的な雰囲気 that ただよう。中央のガラス貼りの書庫には古めかしい書物が多数並んでいる様子が見える。いずれの図書館も退館時に鞆の中を検められるが、知の権威が十分に表現されたこのような建物で閲覧した後には、それも当然と感じられる。それでは、どのような和古書がこれらの図書館に収められているのだろうか。

イエール大学所蔵の和古書は主として二種類の収集経緯がある⁽¹⁾。一方は同大学歴史学科教授で図書館の東亜部長をつとめた朝河貫一が中心になって収集した資料で、「日本文書コレクション」と呼ばれる。朝河は

1906年から1907年にかけて帰国し、日本研究のために多数の資料を収集した。地方史、風俗習慣、宗教などの関連資料が多く、古文書の写しも少なくない⁽²⁾。現地保存主義をとったため、影写本が多いのも特徴である。他方は、日本イエール協会コレクションと呼ばれる。これは、「日本の国民生活の種々相」や「日本文化の精華」を示すことを目的として、日本イエール協会（日本在住イエール大学同窓会）の資金をもとに、東京帝国大学教授の黒板勝美が収集にあたったもの。収集に際しては、海外に送る為、「一流品の掛けがえの無いもの」は含められないが、「能ふるかぎり良い、言はば粒選り」のものを選んだのだという。たとえば、「世界最古の印刷物であるが、唯一つしかないといふものでない」百万塔陀羅尼は四基集めたが、正倉院御物は優れた模造品で代用するなどの工夫をしたとのこと。こうして集められ



写真2

た収集品は、調度類、写経、版経、古文書、影像、墨蹟、和歌連歌懐紙等、絵巻類、写本、版本、中国及び朝鮮の版本にいたる⁽³⁾。実際、古経典や東大寺文書をはじめ、古筆手鑑、古写本、近衛家熙の書簡など日本で

もなかなかお目にかかれない多くの優品が残されていた。なかには、伴信友自筆「伴信友神祇官屋敷考証文」〈日本イエール協会コレクション 2.11〉のように、「昭和六年十二月廿五日 黒板勝美記」と、箱書から黒板の活動が偲ばれるものもある。それでは、朝河が収集した日本文書コレクションは、影写本で貴重ではないと考えてしまってもよいのだろうか。

当館古典籍資料室に『四名家筆記』〈831 - 20〉という資料が所蔵されている⁽⁴⁾。この資料の元表紙には次のように記されている。

鏡面に仏影を現す 黒河翁稿本
附小杉君手書冥報記納函背記
十如筆記 輪池翁書
後三年合戦絵集説存疑 喜多村氏
山東庵手書

だが、同書は実際には、黒川春村、屋代弘賢、喜多村信節の自筆本は含まれているものの、「山東庵手書」は綴じられていない。筆者は、スターリング記念図書館で「鏡面に仏影を現す」〈SML21〉という資料を閲覧して驚いた。この資料は、当館所蔵の『四名家筆記』そのものである⁽⁵⁾。本文だけではなく、巻頭に綴じられた小杉温邨の書簡まで写されており、同書をもとに写したことは確実といえる。そして、何よりも、当館所蔵本で失われた「山東庵手書」の部分

が残されている。これは、「日本永代蔵」「西鶴織留」に記された六項目について抜き書きし、ものにより考証を加えたもの⁽⁶⁾。たとえば、「日本永代蔵 ぬんま鳥べら坊」と題された一文には「貞享四年印本懐硯五冊卷之一云小芝居に播磨か六道のからくり閻魔鳥ハこれじゃとかんぱんたゝき立る中に云々 [割書：京伝云堺町のさまをいへる条にかくいへりぬんま鳥のミセものゝ凶西羈俗つれつれのさし絵にあり、これ元禄八年の刻本也、当時もはらはやりけるにや]」と記されている。この原本が、現存するかどうか分からないが、当館の所蔵に帰する以前に失われた「山東庵手書」は、朝河貫一によって影写本が作られていたことによって、内容が今日に伝えられたのであった。

現在、イエール大学では改めて和古書を整理しているそうであるが、まだその緒についたばかりとのこと。資料の詳細が分かれば、日本では失われたものの発見や欠落部分の補遺など、有益な成果が出されるであろう。日本人の司書の方が和古書の発見や整理に奮闘努力されていた。その作業の進展が待ち望まれる。

注記

- (1) 金子英生「イエール大学と朝河貫一」(『国文学研究史料館』調査研究報告) 11、平成3、〈Z13-2772〉参照。なお、「イエ

- ール大学蔵・日本文書コレクション目録」が併載されている。
- (2) なお、この資料収集の折、朝河は米国議会図書館の日本関係史料の収集も担当している。そちらは、米国議会図書館蔵日本古典籍目録刊行会『米国議会図書館蔵日本古典籍目録』（八木書店、平成15）＜UP72-H2＞を参照のこと。
 - (3) 引用も含め大久保利謙「エール大学寄贈日本文化資料の蒐集」（黒板博士記念会編『古文化の保存と研究』吉川弘文館、1953）＜210.04-Ku892k＞による。
 - (4) 写本。1冊。23.8×16.8cm。大正4年（1915）2月27日購求。
 - (5) 当館の『四名家筆記』は表紙に貼られた題箋を書名としている。だが、朝河が書写した当時、この題箋は添付されていなかったことが、書写された表紙により分かる。この「四名家筆記」の題箋は帝国図書館で付したものではない。同書は、旧蔵印から中川德基と大野洒竹の手を経ていることが分かる

が、「洒竹文庫蔵書目録」（『反町茂雄収集古書蒐集品展覧会・貴重蔵書目録集成』8巻、ゆまに書房、2001＜UP27-G9＞）316頁には「四名家筆記」と記載されているからである。内容も「鏡面に仏影を現す附小杉君手書 黒河翁／十如筆記 輪池翁／後三年合戦絵集説存疑 喜多村節信／山東庵手書 山東庵」と記されており、内容一点ごとに「自筆原稿」といった注記が記されていることから、大野洒竹は、「山東庵手書」も実見していたものと推測される。『中川德基蔵書目録』＜わ029-3＞には同書の記載はない。

- (6) 項目を列挙すると以下の通り。「日本永代蔵ゑんま鳥べら坊」「日本永代蔵やらう遊びハすゝき平八」「西鶴おり留誹諧の事をいへる条に（後略）」「同書に釜みかきのことをいへり」「日本永代蔵に都のまつしや四天王ぐはんさいかぐらあふむらんしゆとあり」「西鶴織留二連哥師露と云字を質におきしといふことあり」

（2004年3月11日訪問）

（人文課（訪問時支部東洋文庫） 大沼宜規）